

## 1. 概要

## (1) 氏名

ふりがな	むらかみ たいち	提出日	2022 年 10 月 27 日
氏名	村上 太一	報告の 対象期間	2022 年 8 月 28 日～ 2022 年 9 月 28 日

## (2) 在籍校の情報(記入日時点)

学校名	上智大学	学部名	経済学部
ふりがな	じょうちだいがく	学 年	2 年
学科 専攻・コース 等	経済学科		

## (3) 卒業校

※当てはまるものに「●」

学校名	都立小山台高等学校	課程	● ←全日制	卒業年月 (西暦)	2021 年
			←定時制		3 月

以下当てはまるものに「●」を入力

	←在籍大学の協定・交換留学・学術交流	長期留学
●	←在籍大学の研修プログラム	短期研修
	←在籍大学以外の国内機関主催・斡旋の留学プログラム	多様性 キャリア開発
	主催者・斡旋機関/業者名	
	←その他・特定のプログラムには参加しない。	

以下当てはまるものすべてに「●」

	←(1)本留学・研修は、在籍大学卒業に必須な留学である(卒業必修要件、必修科目等)
	←(2)本留学・研修は、在籍大学の単位として認定される留学である
●	←(3)上記(1)、(2)のどちらでもない

留学期間	2022 年 8 月 6 日 ~ 2022 年 8 月 28 日
留学国/地域	カナダ・ケベック州

## (1) 留学計画のテーマ

ケベック州住民における英語の重要性の理解と、自分自身の英語のコミュニケーション力の向上

## (2) 留学の内容(実践活動を含む)

## 留学計画の概要

今回の短期留学では、カナダのケベック州に位置するマギル大学へ留学に行く。旅程は、8月6日にエアカナダ航空でモントリオールへ渡航し、8月28日に日本に帰国する。マギル大学での受講時間帯は、基本的には現地時間で月曜日～金曜日の9時30～16時の間であり、午後はマギル大学の学生モニターとの学校外でのアクティビティが中心となる。滞在方法としては、マギル大学の近辺に位置する学生寮に3週間滞在する。そのため、他の留学生との交流を図れる機会が十分にある。それに加え、毎週月曜日から金曜日の間で3日ほど、夜間のアクティビティも用意されている。さらに、週末にはショートトリップが用意されており、現地の文化、特徴を体感する機会も豊富にある。これらの活動のより具体的な内容は、これからの参加者ガイダンスやオリエンテーションなどで説明を受ける予定である。

具体的には、毎日の自由時間で他の留学生や、大学の外に出て現地の人々と、一日8人以上を目安に、自分にとっての英語の重要性の位置づけや、お互いの文化などについて共有したいと考えている。

## 留学内容(実際に実施した活動)

月曜日から金曜日の間、そして2回開催された隔週の週末の小旅行などで、モニター(プログラムのために用意された外国人大学生)らと英語でのコミュニケーションを日常的に取ることができた。また、小旅行や寮のランドリーなどで他プログラムの外国人学生と関わり、友人関係を築くことができた。さらに、ある日には、午後のアクティビティで大学付近の観光地へ行き、そこで観光客の外国人5組に自分一人で英語での軽いインタビューをする機会があり、これまでの人生で経験したことのない体験をすることができた。しかし、本来の目標であった、彼らの中での英語の重要性の位置づけについては、自分の努力不足により聞くことができなかった。また、午前中のクラスの生徒が全員日本人であり、クラスの他国からの留学生とその議題についてディスカッションする機会もなく、その点に関しては残念に感じた。

## (3) 留学の動機と背景

## 留学をしようと考えた動機

これまで一度も海外へ渡航したことがなく、時間が有り余っている大学生活内の時間を使って留学を経験し、3年次、4年次の、1年などの長期留学につなげる第一歩としたいと思ったから。そのうえで、カナダのケベック州への渡航を決意した理由は、カナダの中で言語、文化において例外的であるケベック州へ渡航することで、彼らは英語が生きていくうえで重要だと考えているのかどうかを知りたいと感じたからである。現在カナダは英語とフランス語の2言語を公用語としているが、ケベック州はフランス語が優位に立っている州となっている。実際に、フランス系住民の中には、自身らのことを、フランス系カナダ人ではなくケベコワと呼び、ケベック州におけるマジョリティであることを強調し、北米で最も早くヨーロッパから入植した人々であることを誇りとしている。中には、頑なに英語を話さず、フランス語でしかコミュニケーションを取ろうとしない人々もいるようだ。よって、私には、これらの背景を持つケベック州に実際に渡航し、ケベック州特有の、フランスから影響を受けた文化に肌で触れることで、彼らにとっての英語の重要性を理解し、他人に明確に説明できるようになりたいと感じ、今回の短期留学への参加を決意した。

## (1) 留学の成果

※留学計画にそくして留学/研修でどのような成果を得たか。

私は、今回の短期留学で、英語のコミュニケーション力が大きく上達した。留学へ行く前は、日本で英語を使って会話をする際には、言葉が詰まってしまう、あまり上手く自分の考えを相手に伝えることができていなかった。それに加え、日本においては、もちろん英語を話さずとも何の不自由もなく生活していけるため、英語のコミュニケーション力を上達させる気持ちもそこまで大きくはなかった。しかし、今回初めて海外へ行き、英語を話さなければまともな生活すらできない状況に身を置くことで、何とんでも英語で伝えようとする思考へ変わり、気になる言葉があればすぐに調べて覚えるよう努力し、気が付けば英語でコミュニケーションを取ることに抵抗がなくなり、自然と英語を話すことができるようになっていた。実際に、これまでは、日本で見知らぬ外国人に突然話しかけられた場合、戸惑ってしまっていたが、2週間ほど前にバイト先のレジに外国人のお客様が来られた際には、積極的に英語で接客をすることができるようになっており、非常に喜ばしく感じた。

## (2) 自己の成長

※留学/研修を通じて身についた力や留学/研修で得た学びとその理由・背景

私は、今回の留学を通じて、英語のコミュニケーション力を以前よりも向上させることができ(詳細は、上記3、(1)の留学の成果参照)、それと同時に、自分のリスニング力と語彙力の低さを自覚する非常に良い機会であった。日本の授業の際のリスニングテストや、浅い日常会話程度の際には、聞き取りと、自分が話す際の語彙力にはほとんど問題はなかった。しかし、アメリカ人と話した際には、私にとっては話す速度が速く、聞き取りが非常に難しく感じた。さらに、私が話したメキシコ人たちは、英語の発音が少し特徴的であり、知っている単語でも聞き取れないものが非常に多く、自分のリスニング力不足を痛感した。また、こちらが話す際も、自分の伝えたいことが英語で何と言えよいかかわからず、苦勞した。そして、相手が話している中で、知らない単語が時々あり、語彙力がないと単語自体は聞き取れていても全く理解ができなかったと感じた。よって、私は、今回、自分のリスニング力と語彙力の未熟さを学んだ。

## (3) 留学経験・留学の成果の活用

※留学/研修の成果・経験を将来に渡りどのように活用するか。今後の展望。

私は、今回、日本語が全く通じない相手に、英語でコミュニケーションを取ることに抵抗を失くし、以前よりも非常に高い英語のコミュニケーション力を身に付けることに成功した。一方で、自身のリスニング力、語彙力がまだまだ足りていないと痛感した。よって、これからは、大学の、授業が全て英語で行われるものを履修したり、国際交流が可能な団体、サークルに加入したり、DMMなどのオンライン英会話などを受けたりすることでリスニング力を鍛え、単語帳を通学時間に毎日読むことで語彙力の上昇を図ろうと考えている。そして、より高いリスニング、語彙力を身に付けたいと、3年、4年次に長期留学に挑戦したいと考えている。その長期留学では、現在私が学び始め、これからも学び続ける予定の、開発経済学について、英語で学び、海外の学生と討論をしたり、課題に対しての解決策を探ったりしたいと考えている。

#### 4. 受入れ機関の概要

【公表用】

受入機関の名称
マギル大学
受入機関の所在地
845 Rue Sherbrooke Ouest, Montréal, Quebec
受入機関の概要及び特徴
1821年に創立されたカナダ最古の大学である。フランス語圏であるモントリオール市内にキャンパスがありますが、大学の授業は全て英語で行われ、キャンパス内の公用語も英語である。
受入機関の様子
都会にありながら、キャンパスは非常に広く、キャンパス内には木々が多く生え、のどかな時間を過ごせる場所であった。実際に、キャンパス内には多くの白いハトやリスなどがおり、自然を感じられる良い場所であった。

受入機関の様子が分かる写真



←キャンパス内の写真。  
リスがおり、都会にありながら自然を感じられる場所となっている。

↑ Arts Building と呼ばれる、マギル大学最古の建物。

大学のシンボルのような存在となっている。

#### 5. 留学授業・生活について

【公表用】

(1) 授業履歴 (※受講した授業のシラバス等授業内容が分かるもの及び成績表のコピー・提出したレポートを添付すること。)

受講した授業科目名	受講期間	週当たり 時間数	単位数	授業の内容 及び授業から得られたこと

Languages and Intercultural Communication	8/7~8/26	10 時間		午後のアクティビティや weekend trip などで行く地域の特徴、文化、生息生物などを事前に英語で学んで発表をしたり、リスニングテストなどを行ったりした。
Pronunciation Clinic	毎週水曜日 1 時~3 時	2 時間		正しい発音、アクセント、テンポの付け方など、非常にためになることを教わった。  具体的には、単語の最後の文字と、次の単語の始めの文字が子音→母音の際に音を繋げる、同じ文字の際に二重には発音しない、子音から異なる子音の際に、前の単語の最後の文字を省略したり、音を同化させて発音する、母音から母音の際には w や y などが入り込んでくるなど、流暢に話すうえで重要な、音の繋がりなどを学んだ。

(2) 参加した行事／イベントなど (※パンフレットなど内容が分かる資料があればコピーを添付のこと。)

行事／イベント名	日時	主催者	行事／イベントの内容及び得られたこと
Weekend trip to Ottawa	8/14	マギル大学	カナダの国会議事堂や、カナダ歴史博物館などへ行き、カナダの歴史を学んだ。
Weekend trip to Quebec	8/20	マギル大学	ケベック州議事堂や、首折り階段などへ行ったり、古い風情の残っている old Quebec のテラスでお酒を飲んだりした。

Biodome	8/11	マギル大学	バイオドームへ行き、カナダに生息する動物などを、気候ごとに観察した。

(3) 留学で得られた学位や資格等 (※証明書などがあればコピーを添付のこと。)

学位や資格は特になし。証明書についてはコピーを打ち合わせの際に持参する。

## ※宿泊先での生活や特に注意したこと

ケベック州モントリオールへ行ったのだが、治安もよく、とても綺麗な場所で、宿泊先の寮では水道水が飲めるほどであった。市内では、チャイナタウンを少し外れたエリア以外には、治安が悪いと感じる場所は一つもなかった。実際に、外国人のモニターや、寮でできた友人らと夜 11 時あたりに近くのバーやマクドナルド、港などまで歩いて出かけたが、治安が悪く身の危険を感じるようなことは一度もなかった。しかし、カナダの違う地域へ留学に行った友人は、彼女の友人が治安の悪いエリアで外国人に追いかけられたり、ナイフで刺されたりしたと聞いた。そのため、渡航する地域の治安は非常に重要な要素であると感じた。治安が良いとはいえども、ある夜に屋外ライブへ 1 人で行った友人は 10 ドル札をすられていたため、最低限の注意をする必要はあった。

留学期間中に一度コロナに感染したが、カナダでの隔離期間は 5 日間のみで、私は無症状で体調も優れていたため、その旨を伝え、プログラムへの参加はできないものの、隔離はなく、1 人でなら自由に歩いて良いと伝えられた。コロナに対しての日本との認識の違いに驚いた。症状があった人に対しても、一日二食ではあったものの、食事を部屋まで運んでもらえ、出前を取ることもできたため、手厚く対応してもらい、安心することができた。

## 6. 留学を考えている人へのメッセージ

留学をしてよかったこと、留学前にやっておけばよかったこと、留学を勧める理由/進めない理由など

## ・よかったこと

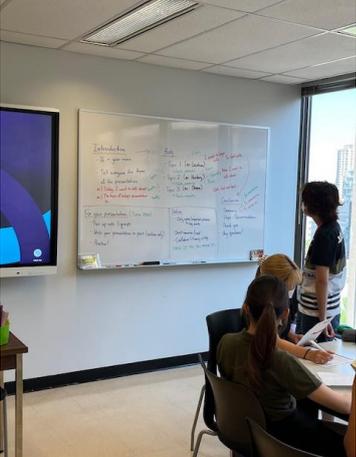
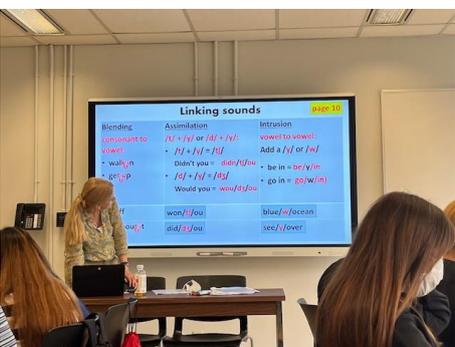
英語のみでコミュニケーションを取ることへの抵抗が全くなかった。これまでは、自分の英語は完ぺきではないため、外国人と英語で話すことが好きでなかった。しかし、今回の留学で、せっかくの機会だと感じ、思い切って英語で積極的に話しかけると、意外にも上手くコミュニケーションが取れ、もちろん不十分な点多かったが、自分に自信が付き、もっと英語を使いたいという気持ちが大きくなり、英語の勉強のモチベーションにもなっている。

## ・留学前にやるべきだったこと

語彙力をもっともっと増やしておくべきだった。友人と話していても、相手の話の中に知らない単語があると、内容を理解できなくなってしまう。文の中で知らない単語が 1 つのみならば、その意味をその場で相手に聞けばすぐに理解ができるが、2 つ 3 つと出てくると意味を聞いても理解に時間がかかり、会話が滞ってしまう。自分が話す際も、語彙力が足りないと自分の言いたいことを上手く伝えられなくなってしまう。

## ・語学留学を勧める人

私の場合は短期の語学留学であり、主に、自分の英語がどれほど海外の生活で通じるのか、どうすればスムーズに外国で英語でコミュニケーションを取れるのか、などを学ぶことができた。そのため、現時点で英語が非常に得意で自信のある人は、語学留学ではなく、実際に海外の大学の授業を英語で受ける長期留学に行くことをお勧めする。逆に、私と同じよう状態の人には、語学留学に行くことを強くおすすめする。もし上手いかわなくても、自分にとって何らかの改善点を見つけられるはずであると考えている。そもそも、やる気が十分に多くあれば、何も話せずに終わるなどということは起きないはずであると思う。

写真	説明
	<p>行きの飛行機の機内食 意外と温かくて驚いた。</p>
	<p>午前の英語の授業の板書 プレゼンの流れ、使うべきつながりのフレーズなどを学んだ。</p>
	<p>午後の週一回の発音教室 非常にためになった。他の生徒からも非常に人気で評判が良く、受けて良かったと言う生徒が多かった。</p> <p>具体的には、単語の最後の文字と、次の単語の始めの文字が子音→母音の際に音を繋げる、同じ文字の際に二重には発音しない、子音から異なる子音の際に、前の単語の最後の文字を省略したり、音を同化させて発音する、母音から母音の際にはwやyなどが入り込んでくるなど、流暢に話すうえで重要な、音の繋がりを学んだ。</p>
	<p>寮から歩いて15分ほどにある、オールドモントリオールというエリア とても美味しいご飯屋さんやおしゃれなバー、アイスクリーム屋などが並んでいる。</p>

## 8. 留学に関連した費用

【公表用】

## 費用調達

調達先	摘要	金額
在籍校奨学金		0円
在籍校以外の奨学金		0円
現地インターン給与		0円
		円
		円
		円
合計		0円

## 支出経費

費目	予算額	実績	研修参加費に含まれる 場合は、●を付ける	摘要	
「研修参加費」 ※在籍大学・主催者に一 括で支払うもの	936,200円		● ←往復航空運賃		
			● ←宿泊費		
			△ ←食費		
			● ←その他	週末の旅行の料金	
以下の欄には、上記「研修参加費」に含まれる予算額は記載しない。(二重)					
費目	予算	実績	摘要／差異の内容		
往復航空運賃	円	円			
学 費	在籍大学授業料	円	円		
	現地学校等授業料	円	円		
	その他	円	円		
現 地 滞 在 費	家賃/宿泊費	円	円		
	食費	円	約 30,000円		
	交通費	円	円		
		円	円		
そ の 他	帰国時 PCR 検査	25,000円	25,000円	クリニックで渡された明細は 99 カナダドルであった。JTB の手数料の方が検査代より高くて理解に困った。	
		円	円		
		円	円		
合計	約 991,200円	約 991,200円	現地通貨レ	105.56円	
			ート	通貨単位名	カナダドル

※合計欄には「研修参加費」を含む費用の総額を記入のこと。

- ① 留学のテーマに関する報告
- ② 留学を終えて、自分自身の成長や学び(実感したエピソードを含め)

※①・②について、それぞれタイトルを付け各2～3ページ程度にまとめてください。

①留学計画失敗の原因

私は、今回、留学のテーマ(計画)を2つ定めた。1つは、英語のコミュニケーション力の向上である。これに関しては、3、(1)留学の成果で記述した通り、成功したと感じている。もう1つは、フランス語が優位なケベック州の市民において、英語は生きる上で重要だと思われるのかどうかを知ることであった。これに関しては、残念だが上手くいかなかった。実際に、下に掲載した写真1の場所で、外国人観光客5組にインタビューを試みた。しかし、その際自分が聞きたいテーマ自体が上手くまとまっておらず、それに加えて初対面の人に聞く内容としてはハードルが高いと感じてしまい、この質問をせずに終わってしまった。あらかじめ自分の中で簡潔にテーマを言えるほどにまとめておくべきだったなと強く後悔した。



(写真1: マウント・ロイヤルの頂上からの景色。晴れの日にはもっと良い景色らしい。)

②英語への抵抗がなくなったこと。

私は、今回の短期語学留学を通して、日本語の通じない外国人相手に対して、英語で円滑なコミュニケーションを取れるようになり、それが自分にとって非常に大きな成長になったと感じている。これまでは、日本において自分から積極的に英語を使おうとしたことはほとんどなかった。実際に、大学のサークルで、第一言語が英語の人と友人になり、今となってはその人は日本語が非常に上手くなり、お互い日本語でコミュニケーションをとっているが、初対面の際にはあまり日本語が流暢に喋れず、何人かはその人に対して英語で話していた。しかし、私はその際英語で会話をしようと試みたが、上手く話すことができず、悔しい思いをした。今回、周りが日本語ではなく英語でなければ通じない環境に身を置いたためか、それとも他の原因があるのか、私には何が原因なのか確信を持って言うことはできないが、とにかく今回の留学で、英語を話すことへの抵抗が全くなり、それに伴いもっと英語力を上げて深い話をしたいと感じた。

さらに、これまでは、日本で外国人に英語で話しかけられた際には、英語への自信がなかったため、嫌だ、苦手だと感じてしまい、

自分より英語ができる友人が対応をするのを見ているだけであった。しかし、先日接客業のバイト先に外国人が来店し、日本語があまり話せない人であったようで、レジ打ちの際に Do you speak English?と聞かれ、その際、実生活で英語が話せ、自分の英語力を活かせると思い、非常にうれしい気持ちになった。そして、お釣りを change ではなく charge と言ってしまうというミスはあったものの、最後まで英語で接客をすることに成功し、非常に喜ばしかった。

これからは、英語力をより向上させたいという気持ちを忘れずに、英語で行われる講義を履修したり、国際交流が可能な大学の団体、サークルに所属したりすることで、英語力の向上に努める。そして、大学4年次に長期の留学へ行きたいと考えている。将来は英語を使って外国の企業と交渉、提携をする架け橋になれる人材になり、英語を使い続けていきたいと考えている。



(ノートルダム大聖堂)



(ウクライナからの難民の人々のお別れパーティー)